

2023年・2024年度
日本生物工学会会長
秦 洋二（月桂冠）



2023年度より、日本生物工学会会長を拝命することになりました月桂冠株式会社の秦洋二です。初めて民間企業所属の学会長となることに不安があることは事実ですが、清水浩先生（大阪大学）、青柳秀紀先生（筑波大学）という2人のアカデミアの副会長とともに学会発展に貢献していく所存です。学会員各位のご理解とご協力のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

【創立100周年記念事業について】

2022年は学会創立100年に当たり、福崎前会長のもと多くの記念事業を行うことができました。10月17日には千里ライフサイエンスセンターにおいて記念式典、受賞講演、創立100周年記念シンポジウムを開催いたしました。コロナ禍の中、当初予定していた会員が一同に集まる式典はできませんでしたが、ハイブリッド開催によって多くの会員と周年事業を共有できたと思います。その他にも記念誌『日本生物工学会100年史』『ひらくひらくバイオの世界（英語版）』などさまざまな記念発刊も行うこともできました。このような100周年記念事業を行うにあたり、非常に多数の個人、団体からご寄付を賜りましたこと、ここに改めて厚く御礼申し上げます。100周年とは歴史の大きな区切りであります。次の100年に向けてのスタートでもあります。創立100周年事業で醸成した熱気を保ちつつ、新たな歴史に向けて活動の継続を進めていきます。

【産学官にとって魅力ある学会】

創立当初より生物工学会は積極的に産学連携が進められており、これまでも多くの連携成果を残すことができました。ただ近年は産業側の会員数や年次大会の発表の減少が顕著になっており、産側の学会離れが危惧されています。ただ、年次大会には産学官の多くの参加者が講演を聴講するなど、学会が発信する情報の魅力が見劣りしているわけではありません。産学官いずれの分野においても魅力ある学会を目指すには、年次大会の活性化を促進することと研究部会活動の継続的発展だと考えています。これまで学会が果たしてきた産学官の交流の場に多くの会員が集うような仕組みを作りたいと考えます。P.F.ドロッカーによれば、イノベーションとは「新しく創造した価値を顧客に提供する」とされています。単なる発見、発明に留まらず、社会実装による価値提供が必要です。まさしく生物工学会がその推進力となり、学会が関係する分野のイノベーション創出に貢献できるよう努めていきたいと考えます。

【ポストコロナに向けた新しい学会のスタイル】

我々は新型コロナウイルス感染拡大によって、多くの行動制限を受け、不自由な思いをしました。学会活動も同様に、年次大会が中止またはリモート開催になるなど大きな影響を受けました。本年は新型コロナウイルス感染が収束に向かい、コロナ禍前の状況に戻つつあります。ただ我々はコロナ禍で苦しい思いをただけでなく、多くのことを学びました。学会のスタイルもオンラインなどのデジタル技術を普通に使用できるようになりました。このデジタル技術の普及は、時間や場所を選ばない新たな学会活動を可能にするものであります。今年は名古屋にて対面方式の年次大会が復活し、昨年できなかった100周年記念祝賀会を実施します。

このようなコロナ禍前のスタイルを復活させるだけでなく、ポストコロナにおける新たな学会活動を模索し、会員の皆様の満足度を高める努力をいたします。

学会活動の目的は、当該学問分野の発展、普及と研究者、技術者の育成と考えています。そのためには、なによりも会員同士のコミュニケーションが重要です。多様な分野の研究者、技術者が生物工学会というプラットフォーム上に集い、闊達な議論をすることが重要です。これからも多くの会員に学会活動に参加していただき、会員間でのコミュニケーションをさらに深めていただければ幸いです。どうぞよろしくお願い申し上げます。

2023年6月

日本生物工学会会長

秦 洋二

【歴代会長挨拶】

- [福崎 英一郎 \(2021年6月\)](#)
- [高木 昌宏 \(2019年6月\)](#)
- [木野 邦器 \(2017年6月\)](#)
- [五味 勝也 \(2015年6月\)](#)
- [園元 謙二 \(2013年6月\)](#)
- [原島 俊 \(2011年6月\)](#)
- [飯島 信司 \(2009年6月\)](#)
- [塩谷 捨明 \(2008年9月\)](#)

【生物工学会誌 巻頭言】

- [福崎 英一郎](#) [第100巻第1号 (2022年1月)]
- [高木 昌宏](#) [第98巻 第1号 (2020年1月)]
- [木野 邦器](#) [第96巻 第1号 (2018年1月)]
- [五味 勝也](#) [第94巻 第1号 (2016年1月)]
- [園元 謙二](#) [第92巻 第1号 (2014年1月)]
- [原島 俊](#) [第90巻 第1号 (2012年1月)]
- [飯島 信司](#) [第88巻 第1号 (2010年1月)]

▶ [生物工学会誌 - 『巻頭言』 一覧はこちら](#)